

その時、少年は神になる

10月16日、ついに迎えた当日。

前日まで天候が危ぶまれていたものの、「雨知らずの流鏑馬」。秋晴れの中、パレードが始まりました。

行く先々では、流鏑馬をたくさんの人々が、一行を拍手や声援で激励しました。

パレードと弓受けの儀を終え、いよいよ本番。静まりかえった馬場に射手の掛け声が響き渡り、流鏑馬奉

納が始まりました。

練習ではなかなか走り出さなかった流星号が、ここ一番の走りを見せ馬場を駆け抜けます。

そんな流星号に負けじと息を合わせて、力いっぱい弓を弾き、矢を放つ呉志朗君、その後ろを守るかのようになんて全力で走る後射手の結希君。

ダンツと大きな音を馬場に響かせながら、見事7本命中させ、奉納を締めくくりました。

奉納後、流鏑馬保存会の有馬会長



は、「(呉志朗君の走りは)最高でした。馬がなかなか走らない中、練習の成果もしっかりと出ていたと思います。もつと我々保存会も射手のために頑張らなければ。」と、若き2人の射手を激励しました。

父親の真樹さんは、「ここまで本当によく頑張ったと思います。怪我無く奉納できてよかったです。この経験をこれからの人生に生かしてほしいです。」と、50日間共に歩んできた道のりを思い返しながら、呉志朗君を労いました。

写真提供

石川 徳美
千歳 弘人



呉志朗君たちの雄姿を
YouTube で見ることが
できます。
ぜひご覧ください。



大役を終えた呉志朗君は「目標の8本には届きませんでしたが無事走り終えることができてよかったです。練習から本番まで一度も落馬しなかったのは、祖母のおかげだと思います。」と話しました。

一人の少年が、祖母との最後の約束を果たし、沢山の人に支えられ大きく成長した流鏑馬奉納となりました。